

第1章

盲・聾・養護学校教育課程調査結果の概要

盲・聾・養護学校教育課程調査結果の概要

I 調査の目的

本調査は、プロジェクト研究（平成 13 年度～平成 15 年度）「21 世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する基礎的研究」の一環として、平成 13 年度の盲・聾・養護学校の教育課程の編成状況を把握することを目的として実施した。

II 調査の方法

この調査は、平成 14 年 3 月に実施した。調査票は、資料 1 に示す通りである。調査票の回収期間は、平成 14 年 4 月～5 月であった。

全国の都道府県及び政令指定都市の盲・聾・養護学校 996 校に調査票を送付し、675 校から回答が得られた。調査票の回収率は、67.8%であった。

表 1 は、学校種別毎の回収率を示す。

表 1 調査票の回収率

	回収率（回答校数／設置校数）
盲学校	81.7% (58/71)
聾学校	71% (76/107)
知的障害養護学校	65% (341/525)
肢体不自由養護学校	64.6% (128/198)
病弱養護学校	75.8% (72/95)
合計	67.8% (675/996)

回収した調査データの集計は、学校種別毎に行った。

いくつかのカテゴリーの選択肢が設定してある項目への回答は、各カテゴリーについて集計を行った。

授業時数等の回答については、平均及び標準偏差を算出した。

自由記述により回答する項目への回答については、類似した回答内容のものを集めて、いくつかのまとまりをつくり、それらのグループの内容を表現する短いタイトルを付与した。各項目の 1 件の回答に複数の回答内容が含まれている場合には、それぞれを 1 件として集計した。

（渡邊 章・竹林地 毅・牟田口 辰巳）

III 盲・聾・養護学校における教育課程の実施状況

1. 盲学校における教育課程の実施状況

1) 幼稚部

(1) 3 歳児学級の平均年間教育時数は 721.07 時間、平均教育週数は 37.8 週、1 日の平均教育時間は 4.08 時間であった。

(2) 4 歳児学級の平均年間教育時数は 812 時間、平均教育週数は 36.5 週、1 日の平均教育時間は 4.19 時間であった。

(3) 5 歳児学級の平均年間教育時数は 788.31 時間、平均教育週数は 36.81 週、1 日の平均教育時間は 4.2 時間であった。

2) 小学部

(1) 教育課程別の児童数については、「小学校に準じた教育課程」、「知的障害養護学校の教育課程」、「下学年の教科代替の教育課程」、「自立活動を主とする教育課程」、「幼稚部のねらい及び内容を取り入れた教育課程」、「訪問による教育課程」の順に多かった。

(2) 最も児童数の多い「小学校に準じた教育課程」において、平均年間授業時数は、1 年生では、「国語」（平均 257.79 時間）、「算数」（平均 138.55 時間）、「生活」（平均 96.29 時間）の順に多かった。6 年生では、「国語」（平均 188.13 時間）、「算数」（平均 165.97 時間）、「社会」（平均 95.08 時間）の順に多かった。

(3) 「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は、「児童の興味・関心に基づく課題」（平均 28.95 時間）、「地域や学校の特色に応じた課題」（平均 25.69 時間）、「環境」（平均 24.64 時間）の順に多かった。

(4) 交流教育の教育課程実施上の位置づけについては、1 年生では、「各教科」に位置づけている回答が最も多く、6 年生では「特別活動」に位置づけている回答が最も多かった。

3) 中学部

(1) 教育課程別の生徒数については、「中学校に準じた教育課程」、「下学年及び下学部の教科代替の教育課程」、「知的障害養護学校の教育課程」、「自立活動を主とした教育課程」、「幼稚部のねらい及び内容を取り入れた教育課程」、「訪問による教育課程」の順に多かった。

(2) 最も生徒数の多い「中学校に準じた教育課程」において、平均年間授業時数は、1 年生では、「国語」（平均 154.74 時間）、「社会」（平均 124.3 時間）、「数学」（平均 107.59 時間）の順に多かった。3 年生では、「国語

(平均 134.23 時間),「数学」(平均 129.04 時間),「外国語」(平均 119.77 時間)の順に多かった。

(3)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は、「生徒の興味・関心に基づく課題」(平均 29.62 時間),「環境」(平均 21.57 時間),「地域や学校の特色に応じた課題」(平均 21 時間)の順に多かった。

(4)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては、「総合的な学習の時間」に位置づけている回答が最も多かった。

4) 高等部 (普通科)

(1)教育課程別の生徒数については、「高等学校に準じた教育課程」,「知的障害養護学校の教育課程」,「下学年及び下学部の教科代替の教育課程」,「自立活動を主とした教育課程」,「訪問による教育課程」の順に多かった。

(2)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては、「特別活動」に位置づけている回答が最も多かった。

5) 高等部 (専門学科)

(1)回答があった学校の設置学科名は、「保健医療」(41 件),「音楽」(1 件)であった。

(2)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては、回答のあった学校では、「各教科」及び「特別活動」に位置づけていた。

6) 学校全般にかかわる事項

(1)単一障害学級で自立活動以外で個別の指導計画を作成している児童生徒数は、「各教科において作成」している児童生徒数が最も多く、次いで「総合的な学習の時間において作成」している児童生徒数が多かった。

(2)学習評価に関する課題としては、「評価の規準」をあげている回答が最も多かった。

(3)教育課程に関する課題としては、「個に応じた教育課程の編成」,「授業時数の確保」をあげている回答が最も多かった。

(牟田口 辰己)

2. 聾学校における教育課程の実施状況

1) 幼稚部

(1)3 歳児学級の平均年間教育時数は 844.87 時間, 平均教育週数は 39.34 週, 1 日の平均教育時間は 4.58 時間であった。

(2)4 歳児学級の平均年間教育時数は 879.13 時間, 平均教育週数は 39.4 週, 1 日の平均教育時間は 4.66 時間であった。

(3)5 歳児学級の平均年間教育時数は 903.67 時間, 平均教育週数は 39.44 週, 1 日の平均教育時間は 4.74 時間であった。

2) 小学部

(1)教育課程別の児童数については、「小学校に準じた教育課程」,「下学年の教科代替の教育課程」,「知的障害養護学校の教育課程」,「自立活動を主とする教育課程」,「幼稚部のねらい及び内容を取り入れた教育課程」の順に多かった。「訪問による教育課程」の回答はなかった。

(2)最も児童数の多い「小学校に準じた教育課程」において, 平均年間授業時数は, 1 年生では,「国語」(平均 258.04 時間),「算数」(平均 140.18 時間)の順に多く, 6 年生では,「国語」(平均 198.86 時間),「算数」(平均 166.48 時間)の順に多かった。

(3)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は,「児童の興味・関心に基づく課題」(平均 36.8 時間),「情報」(平均 25.11 時間),「地域や学校の特色に応じた課題」(平均 23.33 時間)の順に多かった。

(4)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては, 1 年生では「各教科」に位置づけている回答が最も多かった。6 年生では「総合的な学習の時間」に位置づけている回答が最も多かった。

3) 中学部

(1)教育課程別の生徒数については,「中学校に準じた教育課程」,「下学年及び下学部の教科代替の教育課程」,「知的障害養護学校の教育課程」の順に多く,「自立活動を主とした教育課程」「訪問による教育課程」はそれぞれ 1 件,「幼稚部のねらい及び内容を取り入れた教育課程」の回答はなかった。

(2)最も生徒数の多い「中学校に準じた教育課程」において, 平均年間授業時数は, 1 年生では,「国語」(平均 155.93 時間),「数学」(平均 124.26 時間),「社会」(平均 121.48 時間)の順に多かった。3 年生では,「国語」(平均 145.04 時間),「数学」(平均 131.96 時間),「理科」(平均 109.48 時間)の順に多かった。

(3)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は,「生徒の興味・関心に基づく課題」(平均 40.93 時間),「環境」(平均 24.8 時間),「地域や学校の特色

に応じた課題」(平均 22.77 時間)の順に多かった。

(4)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては、「特別活動」に位置づけている回答が最も多く、次に「総合的な学習の時間」が多かった。

4) 高等部 (普通科)

(1)教育課程別の生徒数については、「高等学校に準じた教育課程」,「下学年及び下学部の教科代替の教育課程」,「知的障害養護学校の教育課程」,「自立活動を主とした教育課程」の順に多かった。「訪問による教育課程」の回答はなかった。

(2)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は、「生徒の興味・関心に基づく課題」(平均 30.19 時間),「情報」(平均 23.6 時間),「福祉・健康」(平均 20 時間)の順に多かった。

(3)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては、「特別活動」及び「総合的な学習の時間」に位置づけている回答が多かった。

5) 高等部 (専門学科)

(1)回答があった学校の設置学科名は、「被服」(19 件),「産業工芸」(18 件),「理容」(16 件),「機械」(4 件),「生活情報」(3 件),「産業技術」(2 件),「印刷」(2 件),「家政」(2 件),「情報デザイン」「情報産業」「情報工業」「情報処理」「情報機械」「生活技術」「産業情報」「産業システム」「ビジネス情報」「印刷情報」「印刷ビジネス」「生産流通」「工芸」「造形芸術」「窯業」「アパレル情報」「ファッション」「インテリア」「グラフィックアーツ」(各 1 件)であった。

(2)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は、「生徒の興味・関心に基づく課題」(平均 31.19 時間)が最も多かった。

(3)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては、「特別活動」に位置づけている回答が最も多かった。

6) 学校全般にかかわる事項

(1)単一障害学級で自立活動以外で個別の指導計画を作成している児童生徒数は、「各教科において作成」している児童生徒数が最も多かった。

(2)学習評価に関する課題としては、「評価の規準」をあげている回答が最も多かった。

(3)教育課程に関する課題としては、「個に応じた教育課程の編成」が最も多く、次に「授業時数の確保」,次に「総合的な学習の在り方」をあげている回答が多かった。

(牟田口 辰己)

3. 知的障害養護学校における教育課程の実施状況

1) 幼稚部

(1)4 歳児学級の平均年間教育時数は 726 時間, 平均教育週数は 41 週, 1 日の平均教育時間は 4 時間であった。

(2)5 歳児学級の平均年間教育時数は 766 時間, 平均教育週数は 39 週, 1 日の平均教育時間は 4 時間であった。

2) 小学部

(1)教育課程別の児童数については、「小学部の各教科の目標・内容による教育課程」,「自立活動を主とする教育課程」,「訪問による教育課程」,「幼稚部のねらい及び内容を取り入れた教育課程」の順に多かった。

(2)最も児童数の多い「小学部の各教科の目標・内容による教育課程」において, 平均年間授業時数は, 1 年生では, 「領域・教科を合わせた指導」の「日常生活の指導」(平均 403.97 時間)が最も多く, 次に「生活単元学習」(平均 180 時間)が多かった。6 年生では, 「日常生活の指導」(平均 375.19 時間)が最も多く, 次に「生活単元学習」(平均 244.86 時間)が多かった。

(3)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては, 「領域・教科を合わせた指導」に位置づけている回答が最も多く, 次に「特別活動」が多かった。

3) 中学部

(1)教育課程別の生徒数については, 「中学部の各教科の目標・内容による教育課程」,「自立活動を主とする教育課程」,「小学部の教科代替の教育課程」,「訪問による教育課程」,「幼稚部のねらい及び内容を取り入れた教育課程」の順に多かった。

(2)最も生徒数の多い「中学部の各教科の目標・内容による教育課程」において, 平均年間授業時数は, 1 年生では, 「領域・教科を合わせた指導」の「日常生活の指導」(平均 313.5 時間)が最も多く, 次に「生活単元学習」(平均 183.35 時間)が多かった。3 年生では, 「日常生活の指導」(平均 312 時間)が最も多く, 次に「生活単元学習」(平均 192.59 時間)が多かった。「教科別・領域別の指導」の中では, 1 年生では「保健体育」(平均 109.11 時間)が最も多く, 3 年生でも「保健体育」(平均 107.78 時間)が最も多かった。

(3)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は, 「生徒の興味・関心に基づく課題」(平均 45.98 時間), 「交流活動」(平均 28.26 時間), 「地域や学校の特色に応じた課題」(平均 24.56 時間)の順に多かった。

(4)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては, 「総合的な学習の時間」に位置づけている回答が最も多く, 次に「領域・教科を合わせた指導」が多かった。

4) 高等部 (普通科)

(1)教育課程別の生徒数については, 「高等部の各教科の目標・内容による教育課程」,「下学部の教科代替の

教育課程」,「自立活動を主とする教育課程」,「訪問による教育課程」の順に多かった。

(2)最も生徒数の多い「高等部の各教科の目標・内容による教育課程」において,平均年間授業時数は,1年生では,「領域・教科を合わせた指導」の「作業学習」(平均303.3時間)が最も多く,次に「日常生活の指導」(平均238.71時間)が多かった。3年生では,「作業学習」(平均310.25時間)が最も多く,次に「日常生活の指導」(平均233.3時間)が多かった。

(3)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は,「生徒の興味・関心に基づく課題」(平均51.12時間),「地域や学校の特色に応じた課題」(平均25.4時間),「情報」(平均21.32時間)の順に多かった。

(4)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては,「総合的な学習の時間」に位置づけている回答が最も多かった。

5) 高等部 (専門学科)

(1)回答があった学校の設置学科名は,「産業」(13件),「生活園芸」(4件),「産業技術」(3件),「生活文化」(3件),「木工」(2件),「家政」「家政被服」「産業被服」「工芸」「工業」「工業技術」「農業」「クリーニング」「食品加工」「家庭」「インテリア」「園芸技術」「生活窯業」(各1件)であった。

(2)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は,「交流活動」(平均30.93時間),「生徒の興味・関心に基づく課題」(平均29.29時間),「地域や学校の特色に応じた課題」(平均21.46時間)の順に多かった。

6) 学校全般にかかわる事項

(1)単一障害学級で自立活動以外で個別の指導計画を作成している児童生徒数は,「領域・教科を合わせた指導において作成」している児童生徒数が最も多く,次いで「各教科において作成」が多かった。

(2)学習評価に関する課題としては,「評価の規準」をあげている回答が最も多く,次に「複数の指導者による評価」,次に「個別の指導計画との関係」が多かった。

(3)教育課程に関する課題としては,「総合的な学習の時間の在り方」をあげている回答が最も多く,次に「個別の指導計画の充実」,次に「小・中・高の一貫した教育課程」をあげている回答が多かった。

(竹林地 毅)

4. 肢体不自由養護学校における教育課程の実施状況

1) 幼稚部

(1)3歳児学級の平均年間教育時数は674時間,平均教育週数は36.67週,1日の平均教育時間は3.33時間であった。

(2)4歳児学級の平均年間教育時数は783.83時間,平均教育週数は38.11週,1日の平均教育時間は3.81時間であった。

(3)5歳児学級の平均年間教育時数は776.59時間,平均教育週数は37.27週,1日の平均教育時間は3.85時間であった。

2) 小学部

(1)教育課程別の児童数については,「自立活動を主とした教育課程」,「知的障害養護学校の教育課程」,「小学校に準じた教育課程」,「訪問による教育課程」,「下学年の教科代替の教育課程」,「幼稚部のねらい及び内容を取り入れた教育課程」の順に多かった。

(2)最も児童数の多い「自立活動を主とした教育課程」において,時間数として最も多い「自立活動」の平均年間授業時数は,1年生で532.25時間,6年生で613.81時間であった。

(3)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は,「児童の興味・関心に基づく課題」(平均33.98時間),「情報」(平均28.3時間),「環境」(平均27.33時間)の順に多かった。

(4)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては,「特別活動」に位置づけている回答が最も多かった。

3) 中学部

(1)教育課程別の生徒数については,「自立活動を主とした教育課程」,「知的障害養護学校の教育課程」,「中学校に準じた教育課程」,「下学年及び下学部の教科代替の教育課程」,「訪問による教育課程」,「幼稚部のねらい及び内容を取り入れた教育課程」の順に多かった。

(2)最も生徒数の多い「自立活動を主とした教育課程」において,時間数として最も多い「自立活動」の平均年間授業時数は,1年生で562.63時間,3年生で576.43時間であった。

(3)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は,「生徒の興味・関心に基づく課題」(平均35.07時間),「地域や学校の特色に応じた課題」(平均23.08時間),「環境」(平均21.35時間)の順に多かった。

(4)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては,「特別活動」に位置づけている回答が最も多く,次に「総合的な学習の時間」に位置づけている回答が多かった。

4) 高等部 (普通科)

(1)教育課程別の生徒数は,「知的障害養護学校の教育

課程]、「自立活動を主とした教育課程]、「下学年及び下学部の教科代替の教育課程]、「高等学校に準じた教育課程]、「訪問による教育課程」の順に多かった。

(2)最も生徒数の多い「知的障害養護学校の教育課程」において、時間数として最も多いのは「作業学習」であり、平均年間授業時数は、高等部1年生で206.73時間、3年生で201.4時間であった。

(3)2番目に生徒数の多い「自立活動を主とした教育課程」において、最も時間数として多い「自立活動」の平均年間授業時数は、1年生で576.17時間、3年生で519.36時間であった。

(4)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は、「地域や学校の特色に応じた課題」(平均32.9時間)、「生徒の興味・関心に基づく課題」(平均29.53時間)、「福祉・健康」(平均27.06時間)の順に多かった。

(5)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては、「特別活動」に位置づけている回答が最も多く、次に「総合的な学習の時間」が多かった。

5) 高等部(専門学科)

(1)回答があった学校の設置学科名は、「商業」、「工芸」、「産業工芸」、「生活文化」、「職業(商業コース・家庭コース)」が各1件であった。

(2)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は、「生徒の興味・関心に基づく課題」(平均36.5時間)が最も多かった。

(3)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては、回答があった学校では、「特別活動」及び「総合的な学習の時間」に位置づけていた。

6) 学校全般にかかわる事項

(1)単一障害学級で自立活動以外で個別の指導計画を作成している児童生徒数は、「各教科において作成」している児童生徒数が最も多く、次に「特別活動において作成」、次に「領域・教科を合わせた指導において作成」している児童生徒数が多かった。

(2)学習評価に関する課題としては、「評価の規準」をあげている回答が最も多く、次に「総合的な学習の時間の評価」と「個別の指導計画との関係」が多かった。

(3)教育課程に関する課題としては、「個に応じた教育課程の編成」、「個別の指導計画の充実」、「総合的な学習の時間の在り方」をあげている回答が最も多かった。

(渡邊 章)

5. 病弱養護学校における教育課程の実施状況

1) 幼稚部

(1)幼稚部についての回答は、1件のみであった。

2) 小学部

(1)教育課程別の児童数については、「小学校に準じた教育課程]、「訪問による教育課程]、「自立活動を主とした教育課程]、「知的障害養護学校の教育課程]、「下学年の教科代替の教育課程]、「幼稚部のねらい及び内容を取り入れた教育課程」の順に多かった。

(2)最も児童数の多い「小学校に準じた教育課程」において、平均年間授業時数は、1年生では、「国語」(平均268.48時間)、「算数」(平均143.67時間)、「生活」(平均104.27時間)の順に多かった。6年生では、「国語」(平均191.84時間)、「算数」(平均165.96時間)、「社会」(平均98.97時間)の順に多かった。

(3)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は、「児童の興味・関心に基づく課題」(平均42.7時間)、「情報」(平均29.07時間)、「交流活動」(平均24.13時間)の順に多かった。

(4)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては、「特別活動」に位置づけている回答が最も多かった。

3) 中学部

(1)教育課程別の生徒数については、「中学校に準じた教育課程]、「知的障害養護学校の教育課程]、「自立活動を主とした教育課程]、「訪問による教育課程]、「下学年及び下学部の教科代替の教育課程」の順に多かった。「幼稚部のねらい及び内容を取り入れた教育課程」の回答はなかった。

(2)最も生徒数の多い「中学校に準じた教育課程」において、平均年間授業時数は、1年生では、「国語」(平均142.57時間)、「社会」(平均119.16時間)、「外国語」(平均115.9時間)の順に多かった。3年生では、「数学」(平均128.29時間)、「国語」(平均126.05時間)、「外国語」(平均120.09時間)の順に多かった。

(3)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は、「福祉・健康」(平均69.56時間)、「国際理解」(平均68.43時間)、「環境」(平均68.25時間)の順に多かった。

(4)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては、「特別活動」に位置づけている回答が最も多く、次に「総合的な学習の時間」が多かった。

4) 高等部(普通科)

(1)教育課程別の生徒数については、「高等学校に準じた教育課程]、「知的障害養護学校の教育課程]、「自立活動を主とした教育課程]、「訪問による教育課程]、「下学年及び下学部の教科代替の教育課程」の順に多かった。

(2)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は、「福祉・健康」(平均 35.38 時間)、「生徒の興味・関心に基づく課題」(平均 33.45 時間)、「環境」(平均 28.67 時間)の順に多かった。

(3)交流教育の教育課程実施上の位置づけについては、「特別活動」に位置づけている回答が最も多かった。

5) 高等部(専門学科)

(1)回答はなかった。

6) 学校全般にかかわる事項

(1)単一障害学級で自立活動以外で個別の指導計画を作成している児童生徒数は、「各教科において作成」している児童生徒数が最も多く、次いで「総合的な学習の時間において作成」、次いで「特別活動において作成」している児童生徒数が多かった。

(2)学習評価に関する課題としては、「評価の規準」をあげている回答が最も多かった。

(3)教育課程に関する課題としては、「個に応じた教育課程の編成」をあげている回答が最も多く、次いで「総合的な学習の時間の在り方」、次いで「重度・重複障害児の教育課程」をあげている回答が多かった。

(渡邊 章)

IV 盲・聾・養護学校教育課程調査結果のまとめ

盲・聾・養護学校全体を通じての結果をまとめると以下ようになる。

1) 幼稚部

(1)平均年間教育時数では、聾学校における時数が最も多かった。

2) 小学部

(1)盲学校、聾学校、病弱養護学校では、「小学校に準じた教育課程」の児童数が最も多かった。

(2)知的障害養護学校では、「小学部の各教科の目標・内容による教育課程」が最も多く、次に「自立活動を主とした教育課程」が多かった。

(3)肢体不自由養護学校では、「自立活動を主とした教育課程」の児童数が最も多く、次に「知的障害養護学校の教育課程」が多かった。

(4)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数を見ると、盲学校、聾学校、肢体不自由養護学校、病弱養護学校のいずれにおいても、「児童の興味・関心に基づく課題」が最も多かった。

3) 中学部

(1)盲学校、聾学校、病弱養護学校では、「中学校に準じた教育課程」の生徒数が最も多かった。

(2)知的障害養護学校では、「中学部の各教科の目標・内容による教育課程」の生徒数が最も多く、次に「自立活動を主とした教育課程」が多かった。

(3)肢体不自由養護学校では、「自立活動を主とした教育課程」の生徒数が最も多く、次に「知的障害養護学校の教育課程」が多かった。

(4)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数は、盲学校、聾学校、知的障害養護学校、肢体不自由養護学校では、「生徒の興味・関心に基づく課題」が最も多かった。病弱養護学校では、「福祉・健康」が最も多かった。

4) 高等部(普通科)

(1)盲学校、聾学校、病弱養護学校では、「高等学校に準じた教育課程」の生徒数が最も多かった。

(2)知的障害養護学校では、「高等部の各教科の目標・内容による教育課程」の生徒数が最も多かった。

(3)肢体不自由養護学校では、「知的障害養護学校の教育課程」の生徒数が最も多く、次に「自立活動を主とした教育課程」が多かった。

(4)「総合的な学習の時間」の学習内容別の平均年間取組時数を見ると、盲学校では「国際理解」、聾学校と知的障害養護学校では「生徒の興味・関心に基づく課題」、肢体不自由養護学校では「地域や学校の特色に応じた課題」、病弱養護学校では「福祉・健康」が最も多かつ

た。

5) 高等部(専門学科)

(1)盲学校で回答があった学校の設置学科名は、「保健理療」(41件)、「音楽」(1件)であった。

(2)聾学校で回答があった学校の設置学科名は、「被服」(19件)、「産業工芸」(18件)、「理容」(16件)、「機械」(4件)、「生活情報」(3件)、「産業技術」(2件)、「印刷」(2件)、「家政」(2件)、「情報デザイン」「情報産業」「情報工業」「情報処理」「情報機械」「生活技術」「産業情報」「産業システム」「ビジネス情報」「印刷情報」「印刷ビジネス」「生産流通」「工芸」「造形芸術」「窯業」「アパレル情報」「ファッション」「インテリア」「グラフィックアーツ」(各1件)であった。

(3)知的障害養護学校で回答があった学校の設置学科名は、「産業」(13件)、「生活園芸」(4件)、「産業技術」(3件)、「生活文化」(3件)、「木工」(2件)、「家政」「家政被服」「産業被服」「工芸」「工業」「工業技術」「農業」「クリーニング」「食品加工」「家庭」「インテリア」「園芸技術」「生活窯業」(各1件)であった。

(4)肢体不自由養護学校で回答があった学校の設置学科名は、「商業」,「工芸」,「産業工芸」,「生活文化」「職業(商業コース・家庭コース)」(各1件)であった。

6) 学校全般に関する事項

(1)単一障害学級で自立活動以外で個別の指導計画を作成している児童生徒数は、盲学校、聾学校、肢体不自由養護学校、病弱養護学校では、「各教科において作成」している児童生徒数が最も多かった。知的障害養護学校では、「領域・教科を合わせた指導において作成」している児童生徒数が最も多かった。

(2)学習評価に関する課題としては、いずれの学校種別でも、「評価の規準」をあげている回答が最も多かった。

(3)教育課程に関する課題としては、盲学校、聾学校、肢体不自由養護学校、病弱養護学校では、「個に応じた教育課程の編成」をあげている回答が最も多かった。知的障害養護学校では、「総合的な学習の時間の在り方」をあげている回答が最も多かった。

(渡邊 章・竹林地 毅・牟田口 辰己)